

## 2. 住宅用火災警報器の普及啓発（愛知県・茨城県・福島県）

### 住宅用火災警報器普及に関する取り組み、意見について

茨城県婦人防火クラブ連絡協議会

茨城県婦人防火クラブ連絡協議会総会が平成17年6月17日（金）茨城県市町村会館において、茨城県婦人防火クラブ連絡協議会幹部及びクラブ員231名が参加して盛大に開催されました。

総務省消防庁予防課課長補佐松野秀生氏を講師に招き、「住宅防火対策の必要性について」と題した講演が行われました。これは「住宅用火災警報器PRハンドブック」を用いて、住宅用火災警報器の普及啓発に必要な知識を習得せしめ、クラブ員に周知することを目的としたものです。

#### <本協議会での住宅用火災警報器の設置普及啓発に向けた現況>

役員会時、本県からの説明、資料提供を行い地域に根ざした活動をしている婦人防火クラブ員に今後の各市町村の設置開始に向けた普及啓発を図られるようお願いしました。

又、平成17年度総会においては消防庁予防課の講師による「住宅防火対策の必要性」についての講演を行い、参加者190名に「火災警報器PRハンドブック」を配布したところです。



#### <各クラブ員の反応>

本協議会役員における当該機器の模擬設置等、クラブ員の反応については

- ・ 台所に設置しているのに、魚を焼いた時の煙に鳴動してしまうなど、感知器の反応が多く、スイッチを切ってしまった。
- ・ 火気の無い場所への設置例では、設置期間中鳴動が全くない為、設置自体を忘れていた。
- ・ 警報器の価格に関する質問が多く、広報用の機器パンフレットには値段が記載されていないなどの指摘があった。
- ・ 訪問販売に対する注意を促す必要がある。

[▶ このページの上に戻る](#)

### 住宅用火災警報器の普及啓発（福島県）

福島県女性防火クラブ連絡協議会 福島県女性防火クラブ連絡協議会総会が平成17年8月2日（火）14時40分より、福島県ハイテクプラザにおいて行われ、福島県女性防火クラブ連絡協議会幹部及びクラブ員100名が参加して盛大に開催されました。

総務省消防庁防火安全室予防・調査係長高橋典之氏を講師に招き、「住宅用火災警報器PRハンドブック」を用いて、住宅用火災警報器の普及啓発に必要な知識を習得せしめ、クラブ員に周知することを目的に講演が行われました。参加の会長方からは、以下の感想をいただきました。

#### 福島県女性防火クラブ連絡協議会

会長 遠藤 瞳

おいそがしい中、又、遠路おいでいただきありがとうございます



ました。

火災警報器の効果について、あれだけのデータを拝見し、私たち高齢者を持つ家庭には絶対に必要だと思いました。

一人でも多くの人に分かっていただけるよう、いろいろな団体を通じ、女性防火クラブが一丸となってPRを重ねたいと思っています。

年々高齢者が増加する中で、火災警報器の設置促進は私たち女性防火クラブの役割と認識し、新築の家だけではなく、一人暮らし又高齢者を持つ家庭等に対しても、市町村等の行政機関と連携しながら、何かの方法で取り付けられればと思っています。

最後に、聴覚に障害のある方の為に、点滅式のものができるのであればありがたいと思います。火災による犠牲者が、一人でも少なくなるよう頑張ります。



## 福島県女性防火クラブ連絡協議会

### 副会長 渡部 光子

今回、消防庁の高橋さんから「住宅用火災警報器の普及について」講演をいただきありがとうございました。消防法が改正されて一般家庭でも火災警報器を取り付けなくてはならないことは理解していたのですが、具体的にどのような理由でそのようになったのか、どこに取り付けなくてはならないのか、いまひとつ理解できないでいました。今回の講演でわかりやすく説明していただき、よく理解できました。

今後、私たち女性防火クラブ員は、消防署・市町村役場等の関係機関といっしょになって、一般家庭に対する住宅用火災警報器の普及に少しでも貢献できるようがんばりたいと思います。

私も取り付け方に少々不安がありましたが、割と簡単に付けることができました。火災警報器を取り付けただけでも、安心して過ごすことができます。

私たち女性防火クラブ員としましては、絶対にわが家から火災を出さないよう心掛け、日々気をつけることが活動の一環と思います。また、地域でも、一人暮らしの家々に声を掛けたり、運動会報にも「火の用心」の枠を設けたりしております。



## 講演「火災警報器の普及について」を受講して

## 福島県女性防火クラブ連絡協議会

### 副会長 園部 キヨ子

子供の頃、母親から火災の恐ろしさについては強く言われてきました。「泥棒は持てるだけ持って逃げるだけだが、火事は全部燃えてしまうのだから。」と。（今では大分状況が変わりましたが）

住宅火災では、必ずといってよい程死者が出ており、しかも高齢者が多いことは、新聞・テレビ等でそれとなく知っておりましたが、確実なデータを提示して懇切丁寧に説明してくださったので、大変良く理解できました。

火災原因のトップを占めているのが放火とは、人間としてのモラルの低さで、残念でなりません。すべての人が安心・安全な生活ができるよう、お互いに考えていかなければなりません。住宅火災は建物火災全体の半数以上を占めており、死者数も約9割が住宅火災によるとのこと、更に高齢者の割合が6割に近いことや、睡眠時間帯の死者発生率が他の時間帯の1.5倍にも及んでいることなどから、火災警報器の設置が必要視されるのは当然のことです。

私も恥ずかしながら、警報器に助けられました。

茶の間にテレビがつけてあったので、ちょっと台所を離れて、かわいいペットが迷子になった時の番組に夢中になってしまい、鍋のかけてあったのを忘れてしまいました。

突然、「ブー、ブー」あら何だろうと思っているうちに、「火事です。火事です。」の音声にびっくり、あわてて台所に行き、ガスを止めました。お陰で真っ黒にまではなりませんでした。

煙を感知して音声メッセージで知らせてくれたのです。大事に至らなかったのは警報器のお陰です。

私は、この講習会で学習したことを機会あるたびに、たくさんの方へ普及啓発活動をしていきたいと思っております。市の連絡協議会、そして地区のリーダー研修会の時に伝達して、大切な命・財産を火災から守っていきたくと思っています。

暑い中、ご講演をくださった高橋様に厚く御礼申し上げます。

[▲ このページの上に戻る](#)

## **住宅用火災警報器の設置普及啓発促進”に係る婦防幹部研修会を終えて！**

愛知県婦人消防クラブ連絡協議会

さる6月16日(木)愛知県自治センター会議室において、日本防火協会梅次部長様始め関係職員の皆様のご協力により「住宅用火災警報器の設置普及啓発促進に係る研修会」を催したところ総務省消防庁 木原防火安全室長様を講師として招聘し、県内婦人防火クラブ幹部役員55名の出席を得て開催することができました。この研修会開催にあたり、全国の新住宅防火対策委員として就任していただいております当協議会の永坂会長は「女性だからできる安心なまちづくりを！」…防火防災には地域のコミュニケーションの中で“声かけ”が必要です！と信念に持って積極的に取り組んでいただいております。木原室長様とは新住宅防火対策の推進に関する調査研究会で委員としての面識もあり、火災警報器の必要性、また、効果・課題について詳細に説明いただき婦人防火クラブ員に求められる家庭を守る一員として我が家から火を出さないことを初期の目的としておりますが今日、複雑多様化している個人住宅に必要な「火災警報器設置」のPRがクラブ員の方々の協力なしではありえないことを痛感いたしました。今回の研修会では県婦防幹部の方々が熱心に聴講されましたが、幹部クラブ員のみならずクラブ員の末端までこの内容を浸透していくために各市町村単位で行われるクラブ員会議で説明会を行い、併せて設置に関しての問題点等を解決することにより普及啓発を図ることができると思慮します。



[▲ このページの上に戻る](#)